

北海道の現状と課題

～ 広域連携による構造変革・・・『小さな拠点』づくり ～

重点戦略プロジェクト①

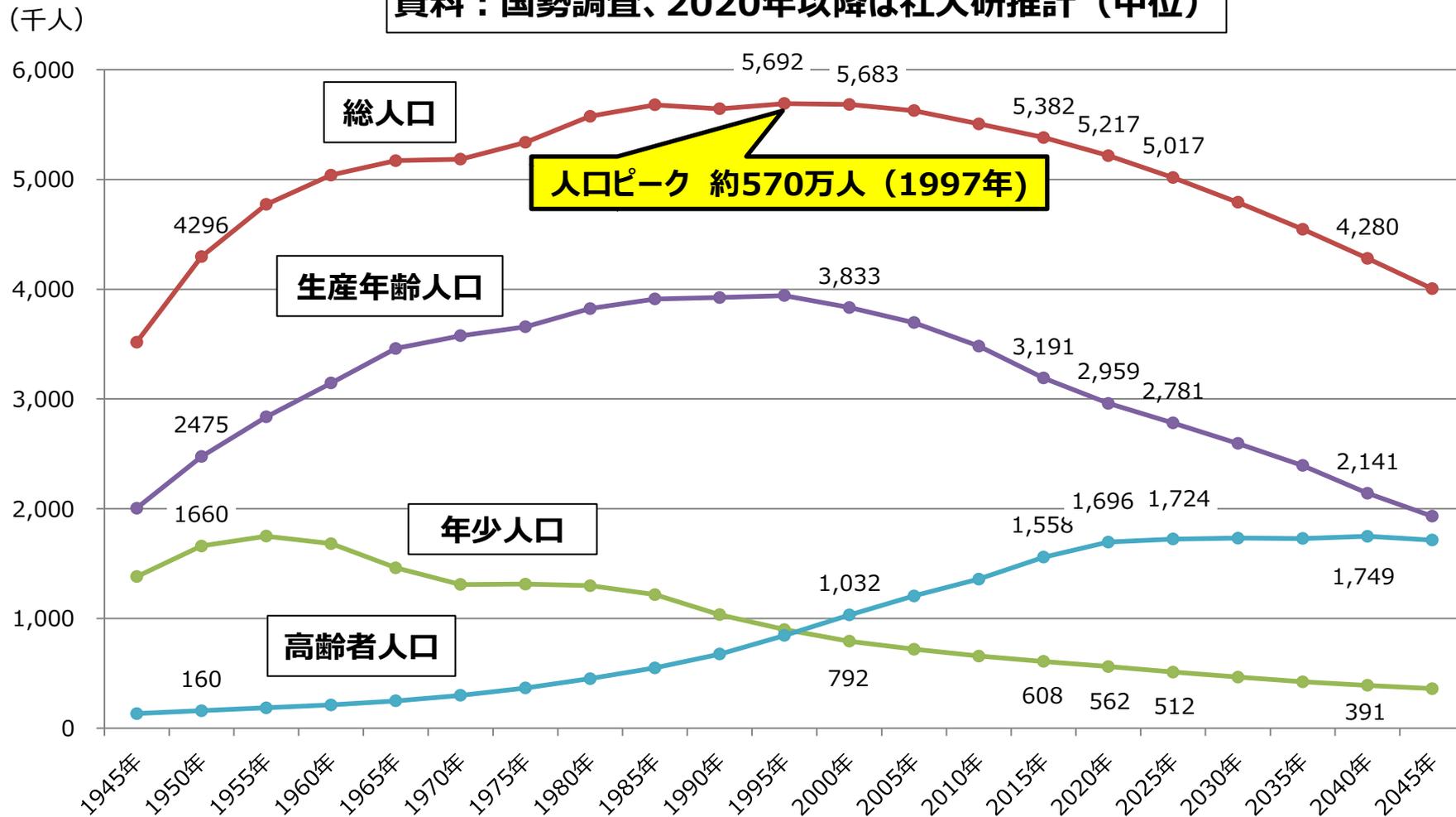
「心豊かに・北海道暮らし」プロジェクト関連

2020年2月4日

北海道の人口の推移

北海道の人口の推移・推計（単位：千人）

資料：国勢調査、2020年以降は社人研推計（中位）



人口ピーク 約570万人（1997年）

資料：国勢調査（除・年齢不詳）、2020年以降は社人研推計（中位）

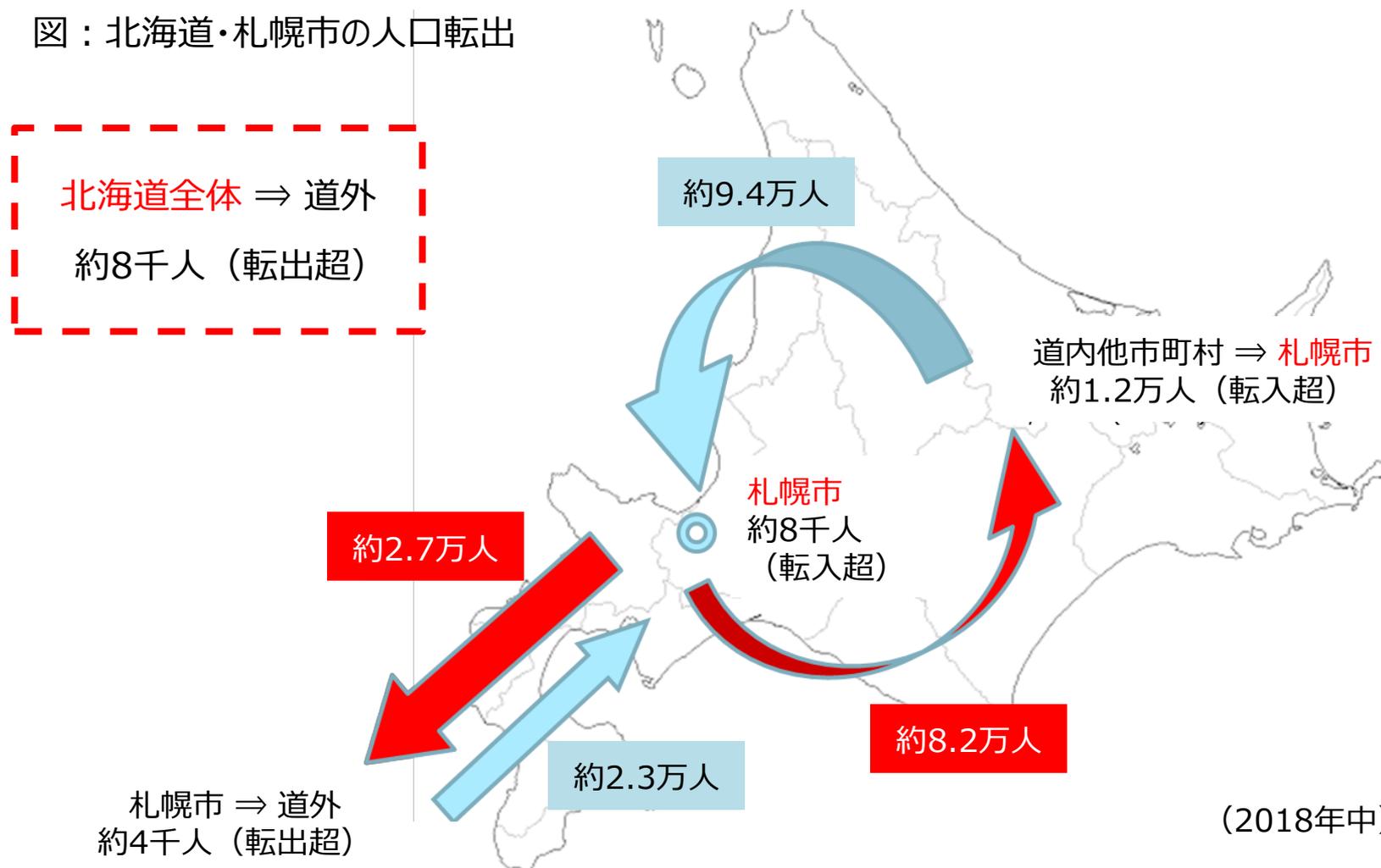
（推計）

北海道の現状と課題 ①

【現状】 続く北海道からの人口転出超

【課題】 札幌のダム機能および地方の小さなダム機能の低下

図：北海道・札幌市の人口転出

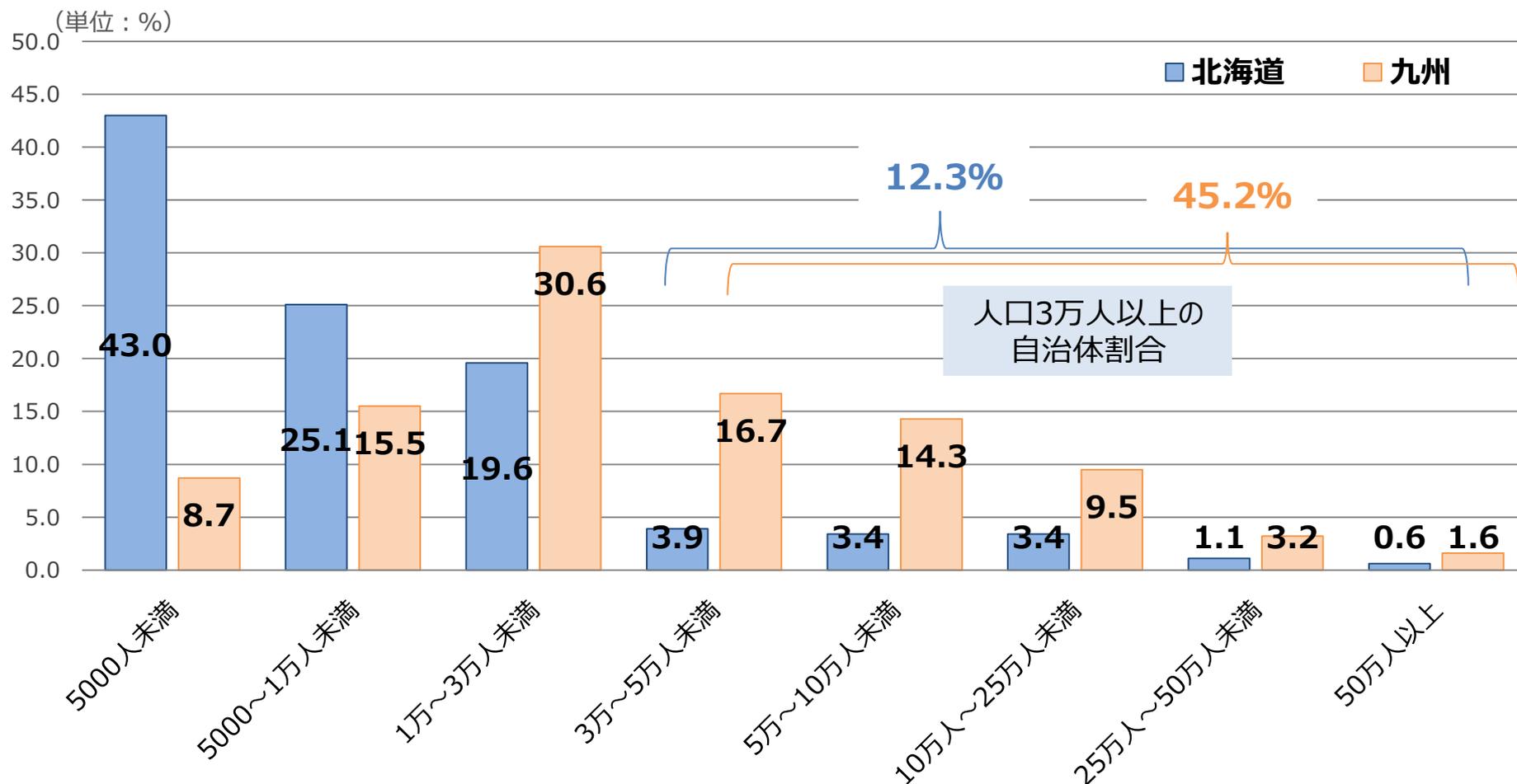


北海道の現状と課題 ②

【現状】 多数の小規模自治体が存在・広域分散型の社会構造

【課題】 小規模自治体単位での限界

図：人口規模別自治体構成比（北海道と九州の比較） 2015年10月1日時点



北海道の現状と課題 ③

【現状】 社会インフラの老朽化

【課題】 行政維持コストの高騰への対応

図：道管理施設の他県との比較

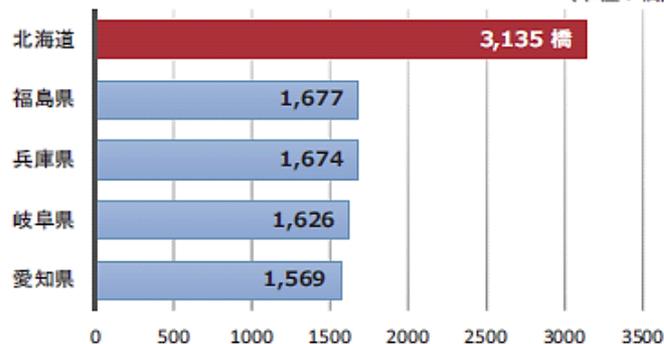
図：道管理公共施設の維持・管理コスト

都道府県管理道路橋梁数ベスト5

(橋長15m以上)

(平成25年4月1日時点 出典 国土交通省ホームページ)

(単位：橋)

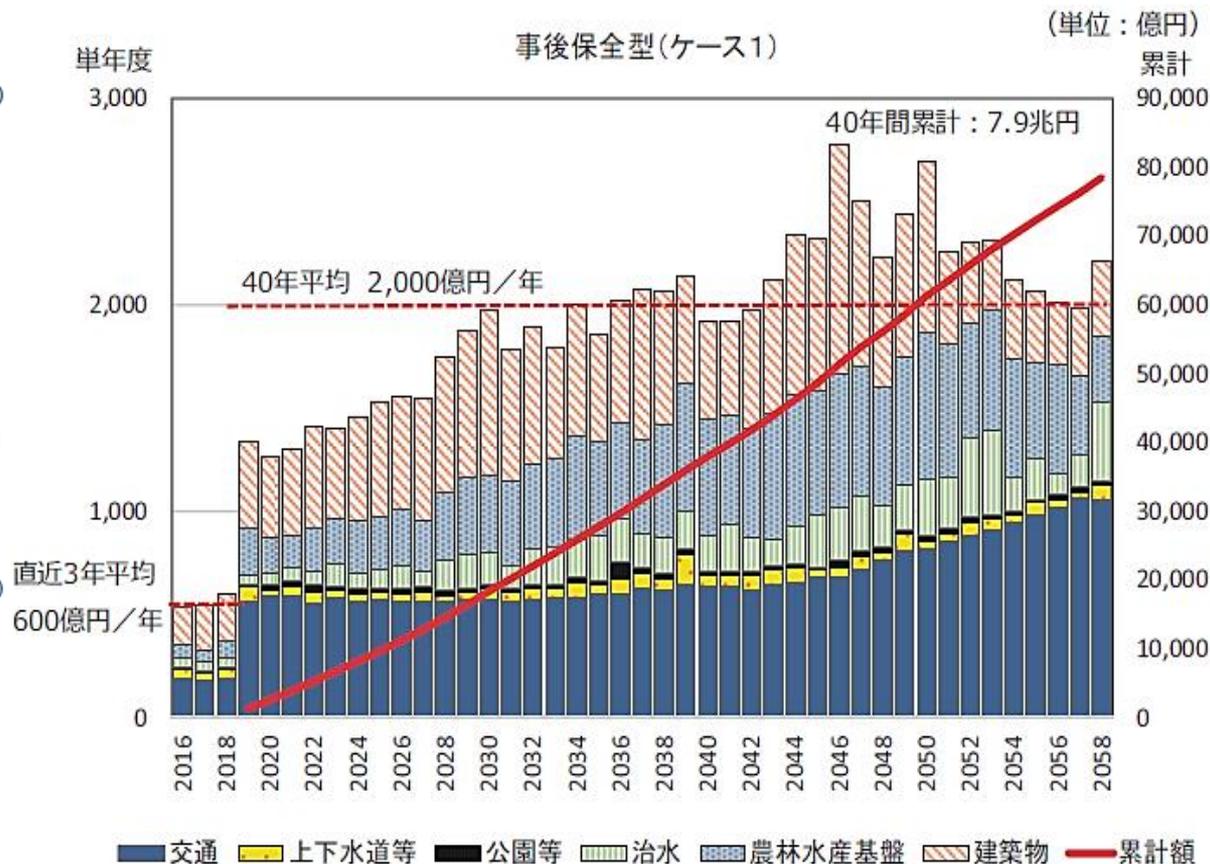
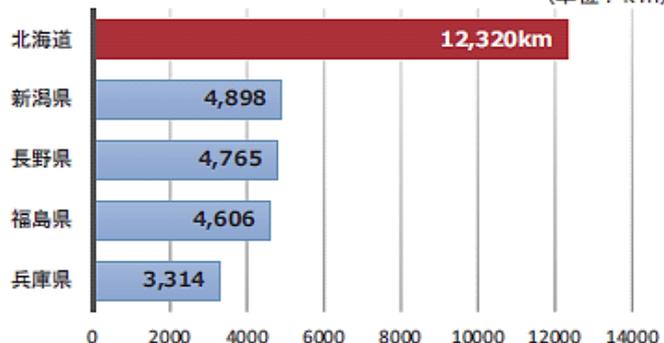


都道府県管理 河川延長ベスト5

(1級指定区間・2級)

(平成29年4月30日時点 出典 国土交通省 河川関係統計データ)

(単位：km)



出典：北海道インフラ長寿命化計画（2019.3改定）

北海道の現状と課題 ④

【現状】暮らしの目線でのサービス拠点が衰退

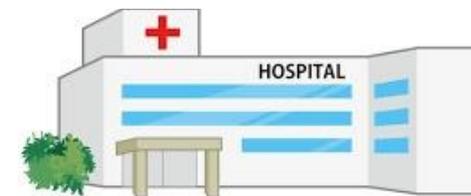
【課題】周辺地域の中心地に人々の充実した生活環境を整備

医療、福祉、教育など、暮らしの視点に立ったサービスが縮小すると、地域で十分な生活が維持できなくなり、人口減少が加速！

令和元年度道民意識調査より

「あなたは、2030年（11年後）頃の北海道がどのような社会であってほしいと思いますか」との問いに対して、

- ① ゆとりのある生活を送ることができる社会
- ② 便利で生活環境が整った社会 ……との回答が上位2つ

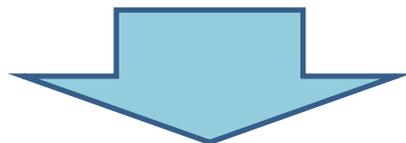


地域産業の発展、雇用の場の拡大だけでなく、生活者目線での生命・健康・生活の維持に必要なサービスの集積が必要！

【 課題に対する取組み 】

- ◆ 周辺地域を含めた経済圏域をベースとした広域連携による
地方創生の原点ともいえる
『小さな拠点(※)』づくりが必要！

※ **中標津モデルという「解」** ～ サービス経済化と地域格差 (8)
日経新聞 2019.5.13 (朝刊) やさしい経済学 (加藤幸治 国土舘大教授)

**具体的には、**

- 各地域ごとに、公立・公的病院の再編など、医療、福祉、教育といった「貯蔵も輸送もできない」サービスの集積・充実
- ※ サービスは性質上、生産消費同時性という特性を持っており、住民目線でのサービスの拠点づくりは地方創生には不可欠